

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市幸町南児童館		
2 指定管理者	特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク		
3 指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日		
4 施設の利用状況	《利用者数》 ・ 令和3年度 8,149人（前年度比 79.1%） ・ 令和2年度 10,302人 ・ 令和元年度 18,760人		
	《事業》 ・ 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業		
5 収支の状況	《費用》		( )は前年度決算額
	・ 指定管理者に支払った費用	27,735千円 (29,882千円)	
	・ その他市が負担した費用	0千円 (0千円)	
	《収入》		
	・ 使用料収入	0千円 (0千円)	
	・ その他収入	0千円 (0千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・ 利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者会を実施。		

## 二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。今年度においては地域との交流事業が多く休止されたが、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。	18/18

### 三 評価総括

《指定管理者(特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク)による自己評価》
<p>幸町南児童館では「やすらぎの空間・わくわくするところ」を目標に掲げ、乳幼児親子や児童クラブ児童が安心して楽しく過ごせる児童館運営を目指してきた。消毒作業にも全職員で取り組み、コロナ対策に万全を期してきた。しかし社会の感染状況は厳しく、悩みながらの企画運営になってしまったのは残念である。それでも与えられた状況下での実施可能な行事の見直しや、工夫・改善が行われてきたことは、館の独自性を生み出す原動力にもなったと考える。コミセンとの共同開催による館まつりは、令和3年度も中止となったため、クラブ児童を対象とした館単体でのお祭りを開催した。夏季休業中には、お楽しみ行事として「工作タイム・水遊びタイム・お絵描きタイム・映画タイム」を複数回ずつ実施し、子供たちにわくわく感を味わわせることができたと考える。コロナ規制が緩和された頃を見計らって、地域連携行事の「ポッチャ交流会」を復活できたのはうれしい限りである。環境整備の面では、団体としてサーマルカメラの設置、光触媒コーティングの施工が大きな変化であった。安心・安全を確保する上で大変効果があった。また、夏季休業中に、冷房のない遊戯室に冷風扇を2台レンタルしたことも子供の活動と健康管理の面で大変良かった。密を防ぐためにオンラインで会議や研修が行われるようになったのも時代の流れを象徴している。来館者と職員の距離が近く、笑顔と明るい会話が多いのは、本館の強みであると実感した。新年度は「あふれる笑顔 わくわくじどうかん」を目標に設定し、幸町南児童館の持ち味を生かした館運営に取り組んでいきたい。そして子供を地域で育ててもらえるような事業の企画や連携に取り組み、社会参画できる子供たちを育ていきたい。</p>

《施設設置者(仙台市)による評価》	総合評価
<p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に係るまん延防止重点措置や宮城県・仙台市緊急事態宣言、宮城県緊急特別措置等の発令があったが、児童クラブに関しては、年間通して受け入れを行った。この間、小学生や乳幼児親子の自由来館などは一部は休止としていたが、解除後も小学生の自由来館は土曜日のみ、乳幼児親子は平日午前のみと制限のある再開となった。年間を通して、感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力をしながらの児童館運営だった。</p> <p>児童健全育成事業においては、上学年の児童を対象とした登録制の「プチはッピーサウス」を土曜日に定期開催した。子ども達がやりたいことを話し合い、その意見を生かした遊びや行事を年間通して実施できるようサポートしたり、それらの活動を通して異年齢交流が深まるよう支援するなど、自主的な活動の機会を提供している。「ハッピーサウス」として、中高生の利用を促す取り組みも継続して行っている。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、登録制の「さいわいくんタイム」や自由参加の「よちよちドロップ」で季節の工作や行事など様々な遊びを提供した。地域ボランティアによる「ぶちぶちおはなし会」は読み聞かせや手遊び・人形劇など情操を育みながら親子で楽しめる多彩な内容で、参加者から好評を得ておりリピーター増加につながっている。</p> <p>地域交流推進事業においては、児童館独自のお祭りとして「ハッピーまつり」を開催した。例年様々な近隣の施設で披露し地域に根付いているすずめ踊りを「ハッピーまつり」で披露し、活動が途切れないように努めた。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、日頃から積極的に外遊びや遊戯室での運動遊びの時間を設けている。遊戯室の割り当てや遊びの内容を子ども達が相談して決めるなど、運動能力の向上を目指すと共に自主性や社会性も育てており、児童の心身の健全育成に努めている。</p>	S

### 四 その他特記事項(上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する)

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課) : 子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課